

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-067731

(43)Date of publication of application : 16.03.2001

(51)Int.Cl.

G11B 7/24

(21)Application number : 11-241281

(71)Applicant : VICTOR CO OF JAPAN LTD

(22)Date of filing : 27.08.1999

(72)Inventor : SUZUKI YOSHIKI
OISHI KENJI

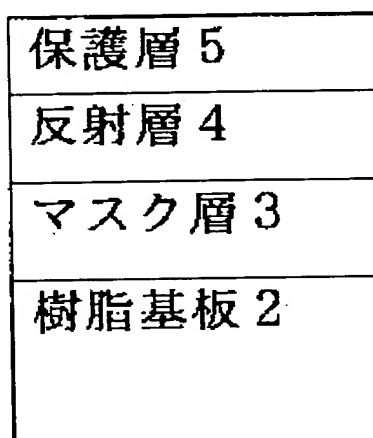
(54) OPTICAL INFORMATION RECORDING MEDIUM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an optical information recording medium provided with limitations in the number of reproduction times.

SOLUTION: A mask layer 3 of the optical disk which is formed by successively laminating the mask layer 3 and a reflection layer 4 on a light transparent substrate 2 previously recorded with information signals by micro-rubbed shapes consists of a thermoplastic material which reproduces the information signals by substantially reducing the diameter of a light spot and emitting a laser beam to a reflection layer 4 side to emit the returning light from the reflection layer 4 side to the substrate 2 side by the substantial increase in the light transmittance of part of the irradiated portions when the temperature of the irradiated portions to be continuously irradiated with the laser beam for reproduction made incident from the substrate 2 side rises to a decoloring temperature or above and which loses the ultra-high resolution function of the disk when the internal composition is changed by the heat accumulated in the irradiated portions after the reproduction.

光ディスク I



レーザー光照射

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-67731
(P2001-67731A)

(43) 公開日 平成13年3月16日 (2001.3.16)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームト [*] (参考)
G 1 1 B 7/24	5 3 8	G 1 1 B 7/24	5 3 8 A 5 D 0 2 9
	5 2 2		5 2 2 F

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平11-241281

(22) 出願日 平成11年8月27日 (1999.8.27)

(71) 出願人 000004329

日本ビクター株式会社

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番
地

(72) 発明者 鈴木 嘉昭

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番
地 日本ビクター株式会社内

(72) 発明者 大石 健司

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番
地 日本ビクター株式会社内

Fターム (参考) 5D029 MA02 MA04

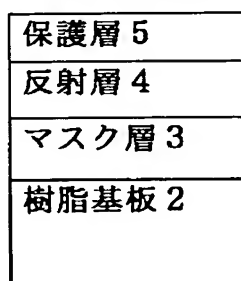
(54) 【発明の名称】 光情報記録媒体

(57) 【要約】

【課題】 再生回数に制限を設けた光情報記録媒体を提供する。

【解決手段】 情報信号が微小凹凸形状によって予め記録されている光透過性基板2上に、マスク層3と反射層4とを順次積層して成る光ディスクであって、マスク層3は、基板2側から入射する再生用レーザー光が連続照射される照射部分の温度が消色温度以上になった場合には、照射部分の一部の光透過率が高くなって光スポット径を実質的に縮小してレーザー光を反射層4側へ出射して反射層4側からの戻り光を基板2側へ出射することにより情報信号を再生し、かつこの再生後に照射部分の蓄熱によって内部組成を変化させることにより、ディスク超解像機能を喪失するサーモクロミック材料から成る。

光ディスク I



レーザー光照射

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 情報信号が微小凹凸形状によって予め記録されている光透過性基板上に、少なくとも、マスク層と反射層とを順次積層して成る光情報記録媒体であって、

前記マスク層は、

前記光透過性基板側から入射する再生用レーザー光が連続照射される照射部分の温度が消色温度以上になった場合には、前記照射部分の一部分の光透過率が高くなって光スポット径を実質的に縮小して前記再生用レーザー光を前記反射層側へ出射して前記反射層側からの戻り光を前記光透過性基板側へ出射することにより前記情報信号を再生し、かつこの再生後に前記照射部分の蓄熱によって内部組成を変化させることにより、ディスク超解像機能を喪失するサーモクロミック材料から成ることを特徴とする光情報記録媒体。

【請求項 2】 グループ部を有する光透過性基板上に、少なくとも、マスク層と記録層と反射層とを順次積層して成る光情報記録媒体であって、

前記マスク層は、前記記録層の消去温度よりも高い消色温度を有しており、前記光透過性基板側から入射する再生用レーザー光が連続照射される照射部分の温度が消色温度以上になった所定時間以内の場合には、前記照射部分の一部分の光透過率が高くなって光スポット径を実質的に縮小して前記再生用レーザー光を前記記録層側へ出射して前記反射層側からの戻り光を前記光透過性基板側へ出射することにより前記情報信号を再生するサーモクロミック材料から成り、

前記記録層は、前記マスク層側から入射する前記再生用レーザー光が連続照射される照射部分の蓄熱によって、既に記録されている情報信号を消去する記録材料から成ることを特徴とする光情報記録媒体。

【請求項 3】 前記記録層は、相変化記録材料から成ることを特徴とする請求項 2 記載の光情報記録媒体。

【請求項 4】 前記マスク層は、少なくとも電子供与呈色化合物と電子受容性顔色剤とを含むサーモクロミック材料から成ることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載の光情報記録媒体。

【請求項 5】 前記電子供与呈色化合物が少なくともロイコ染料を含む化合物であり、前記電子受容性顔色剤が少なくともビフェニール系化合物を含む化合物であることを特徴とする請求項 4 記載の光情報記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、再生回数に制限を設けた光情報記録媒体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 近年、光学的情報記録媒体において大容量記録再生技術の開発がなされている。その中で、光学的情報記録媒体上の照射レーザー光の実効的照射スポッ

ト径を小さくすることで、高密度な光情報を再生する手法としてディスク超解像法が以下の例に示すように、開発されている。

【0003】 サーモクロミック物質を使用してディスク超解像を実現する光記録媒体が特開平 7-182693 号公報や特開平 7-311978 号公報に開示されている。この技術においては、レーザー光が照射されることにより、サーモクロミック層の照射部分の中心部分のみが、温度上昇によって、部分的に透過性になるので、この現象を利用して、実効的照射スポット径を小さくし、これにより、今まで、再生することの出来なかった高密度の再生を可能としている。

【0004】 また、この大容量の記録情報を何回も再生して利用するための改良法に関する技術が開示されている（特開平 10-147068 号公報）。この技術においては、使用するレーザー光における、サーモクロミック層の吸光度の最適範囲を設定することにより、スチル再生特性を向上させることに成功している。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、読み終えた情報を、その場で、直ちに、消し去る必要は古くからあり、例えば、紙を使用の手紙類は、読み終えてから、ライター等の火で焼いて、再び内容を読むことを不可能とされていた。光ディスクにおいても、再生読み取り後、直ちに、情報の破壊ないし消去をすることにより、再再生を不可とする技術が必要とされている。しかし、この再生直後に再再生を積極的に不可とする技術は従来なかった。とりわけ読み取り専用の ROM 型の光ディスクでは再生回数を制限できなかった。ここで云う再再生を不可とする技術は、単に、再生パワーを大として、RAM 型ディスク（書き換え型記録再生用のディスク）の記録層を破壊する様に記録再生装置を設定できると云うものではない。マスク層を設けた光ディスクでは、再生レーザー光のスポット径を縮小するために再生パワーを増大させる必要があり、この読み取り動作と同時にマスク層あるいは記録層が熱損傷あるいは光損傷を受け、微小な記録マークを再生できないものとするものである。積極的に破壊読み出しを行い再生回数を制限するものである。逆に云えば、再再生を不可となるような再生パワーや再生線速度に再生条件を設定しなければ、該高密度記録情報を再生することができない。そこで、上記した課題を解決すべく、本発明は成されたものであり、情報信号が微小凹凸形状によって予め記録されている光透過性基板上にマスク層と反射層とを順次積層して成る再生専用光情報記録媒体の場合には、前記マスク層には、再生時の蓄熱によってディスク超解像機能を喪失してしまうサーモクロミック材料を用いて、再生回数に制限を設けたものである。また、グループ部を有する光透過性基板上にマスク層と記録層と反射層とを順次積層して成る記録型光情報記録媒体の場合には、前記マスク層には、消色温

度が前記記録層の消去温度よりも高いサーモクロミック材料を用い、かつ再生時の蓄熱によって記録されている情報信号を消去する記録材料を用いて、再生回数に制限を設けたものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】上述した課題を解決するために、本発明は、次の(1)～(5)の構成の光情報記録媒体を提供する。

(1) 図1、図2に示すように、情報信号が微小凹凸形状によって予め記録されている光透過性基板(樹脂基板)2上に、少なくとも、マスク層3と反射層4とを順次積層して成る光情報記録媒体(光ディスク)I、IIであって、前記マスク層3は、前記光透過性基板2側から入射する再生用レーザー光が連続照射される照射部分の温度が消色温度以上になった場合には、前記照射部分の一部の光透過率が高くなって光スポット径を実質的に縮小して前記再生用レーザー光を前記反射層4側へ出射して前記反射層4側からの戻り光を前記光透過性基板2側へ出射することにより前記情報信号を再生し、かつこの再生後に前記照射部分の蓄熱によって内部組成を変化させることにより、ディスク超解像機能を喪失するサーモクロミック材料から成ることを特徴とする光情報記録媒体。

(2) 図3、図4に示すように、グループ部を有する光透過性基板2上に、少なくとも、マスク層3と記録層9と反射層4とを順次積層して成る光情報記録媒体(光ディスク)III、IVであって、前記マスク層3は、前記記録層9の消去温度よりも高い消色温度を有しており、前記光透過性基板側2から入射する再生用レーザー光が連続照射される照射部分の温度が消色温度以上になった所定時間以内の場合には、前記照射部分の一部の光透過率は高くなって光スポット径を実質的に縮小して前記再生用レーザー光を前記記録層9側へ出射して前記反射層4側からの戻り光を前記光透過性基板2側へ出射することにより前記情報信号を再生するサーモクロミック材料から成り、前記記録層9は、前記マスク層3側から入射する前記再生用レーザー光が連続照射される照射部分の蓄熱によって、既に記録されている情報信号を消去する記録材料から成ることを特徴とする光情報記録媒体。

(3) 前記記録層9は、相変化記録材料から成ることを特徴とする請求項2記載の光情報記録媒体。

(4) 前記マスク層3は、少なくとも電子供与呈色化合物と電子受容性顕色剤とを含むサーモクロミック材料から成ることを特徴とする請求項1乃至請求項3のいずれかに記載の光情報記録媒体。

(5) 前記電子供与呈色化合物が少なくともロイコ染料を含む化合物であり、前記電子受容性顕色剤が少なくともピフェニール系化合物を含む化合物であることを特徴とする請求項4記載の光情報記録媒体。

【0007】

【発明の実施の態様】以下、本発明の光情報記録媒体を、図に沿って説明する。図1～図4はそれぞれ本発明の光情報記録媒体の第1実施例～第4実施例の積層状態を説明するための図である。

【0008】まず、本発明の光情報記録媒体が再生専用の光ディスク(ROM型光ディスク)である場合の特徴について、具体的に列記する。

(1) 光透過性基板上の凹凸ピットによって、情報信号が予め記録されている。

(2) 所謂、ROM媒体においては、凹凸ピット面上に、サーモクロミック層(マスク層)、金属膜による反射膜、および保護層を順次積層して構成する。

(3) 誘電体膜はその目的に応じて、各層間に設けられる。例えば基板とマスク層間、マスク層と反射膜間に設けられる。

【0009】(4) マスク層を構成するサーモクロミックマスク材料は、次の性質を有している。即ち、再生用レーザー光の波長に対して、消色温度より低い温度では吸光度が大であるから光透過率は低い。このため、光透過性基板上の凹凸ピット上にマスク層があり、再生用レーザー光が光透過性基板側から入射する場合、凹凸ピット情報を含んだ通過光がこのマスク層に吸収され、十分な反射光として、光透過性基板側へ戻ってこない。一方、再生用レーザー光の波長に対して、消色温度よりも高い温度ではマスク層の吸光度が減少するから光透過率は増加する。このため、光透過性基板上の凹凸ピット上にマスク層があり、再生用レーザー光が光透過性基板側から入射する場合、凹凸ピット情報を含んだ通過光がこのマスク層に吸収されることなく、十分な反射光として、光透過性基板側へ戻ってくる。

【0010】(5) 具体的には、再生時、光強度がガウシアン分布であるレーザー光の加熱により、光照射の中心部分のマスク層は、光照射の周辺のマスキング層のそれよりも、高温となるから、このマスク層の前記した消色温度を最適化することにより、レーザー光の中心に位置する凹凸ピットのみを再生し、周辺の凹凸ピット情報をマスクすることが可能となる。実際には、ディスクは回転しているので加熱された領域は時間方向に遅れが生じ、照射スポットの中心よりも後方側に消色した開口部が形成されることになる。マスク層の透過率が上がり、高密度再生がなされると同時に、その発熱、蓄熱あるいは光照射により、マスク層のサーモクロミック材料自身に変化を起こし、ディスク超解像機能を失う様に設定することで、高密度記録情報の再生を不可とするものである。ディスク超解像機能の喪失とは、再生スポットの縮小ができない状態をいい、マスク層が温度に依存せずに常に透過率が高い状態すなわち消色状態となり、スポット周辺の記録マークを遮蔽(マスク)できないことを指す。

【0011】(6) マスク層のサーモクロミック材料

のディスク超解像機能を失効させる方法として以下の様なものがある。①再生時に、このマスク層の分解温度までマスク層を昇温することで、マスク層のサーモクロミック材料の分解が起こり、マスク層としての機能を失なわせる。②再生時に、顕色剤物質と色素物質で構成されたサーモクロミック材料を両物質の分離温度までマスク層を昇温することで、マスク層物質が分離し、マスク層としての機能を失なわせる。③基板がポリカーボネート材料であり、且つビフェノール系物質を含む顕色剤で構成されたサーモクロミック材料をそのポリカーボネート樹脂基板への拡散吸収温度にまで昇温することで顕色剤不足を発生させ、マスク層としての機能を失なわせる。④色素物質がロイコ色素を含む物質で構成されているサーモクロミック材料において、ロイコ色素の閉環温度までマスク層を昇温することで、マスク層としての機能を失なわせる。⑤色素物質がロイコ色素を含む物質で構成され、顕色剤がビフェノール系物質で構成されているサーモクロミック材料をロイコ色素とビフェノール系物質とのサーモクロミック反応以上の温度までマスク層を昇温することで、マスク層としての機能を失なわせる。このように①～⑤のいずれかの反応を消色温度以上の温度で発生させることで、再生直後に、マスク機能を破壊して、再度の再生を不可とさせるものである。

【0012】つぎに、本発明の光情報記録媒体が記録再生用光ディスクである場合の特徴について、具体的に列記する。

(1) 所謂、書き換え型媒体あるいは追記型(ライトワンス)媒体においては、光透過性基板上に形成されてある一連のグループ面上に、サーモクロミック層(マスク層)、記録層、反射膜、保護層を順次積層して構成する。

【0013】(2) 記録層は、相変化媒体、光磁気媒体、有機系ライトワンス媒体のいずれかであり、情報信号の消去が生じる層が、該記録層である。

(3) 誘電体層はその目的に応じて、各層間に設けられる。例えばマスク層と記録層間、記録層と反射膜間に設けられる。

【0014】(4) マスク層を構成するサーモクロミックマスク材料は、再生パワー P_{sr} にてディスク超解像効果が発現し、かつ再生パワー P_{mask} にてディスク超解像機能を喪失する。再生パワーが P_{sr} より小さい場合には、マスク層が消色温度以上に加熱されないため透過率が低く照射した再生光が検出器に戻ってこない。再生パワーを徐々に増し、 P_{sr} のパワーを照射するとマスク層の温度が上昇し消色温度以上に加熱されて透過率が高くなり情報信号が検出される。消色温度以上に加熱された領域が実質的な再生スポットとなり、再生パワーに比例して再生スポットサイズは増大する。光の回折限界以下の微小マークの再生出力はスポットサイズと共に増大し、 P_{sr} よりも高いパワーで最大値をとり、過剰なパワ

ーを入れると出力は低下し、再生パワー P_{mask} にてディスク超解像機能を喪失する。ただし、記録光によるディスク超解像機能の低下はない。記録にはパルス光を用いるため照射時間が極短くマスク層への熱損傷や光損傷は無視できる。

【0015】(5) 記録層を構成する記録材料は、再生パワー P_{erase} にて消去する記録材料からなり、 P_{sr} と P_{erase} の関係が、 $P_{erase} \leq P_{sr}$ を満足する。ディスク超解像が発現する再生パワー P_{sr} 以上で再生を行うと再生信号を検出すると同時に直ちに記録層の状態が変化して、記録マークの破壊や消去が起こり再生回数を制限する。

(6) 具体的には、記録層の消去温度をマスク層の消色温度をよりも低温に設定する。マスク層の消色温度が、記録層である光磁気のカюри温度を越える様にする。外部磁場により消去を行う。また、マスク層の消色温度が、記録層である相変化記録材料の結晶化(消去)温度を越える様にする。記録部分及び未記録部分を結晶化あるいは非晶質化のどちらかに均一化することで、記録情報を消去する。

【0016】(7) マスク層の消色温度が、記録層である有機系ライトワンス材料の分解(消去)温度を越える様に設定することで、未記録部分をすべてを記録部分に変質させることで、記録情報を破壊(消去)する。

【0017】(8) マスク層の層膜厚を厚くすることにより、レーザー光の吸収を大きくし、再生時に必要なレーザーパワーを高める。これにより、再生時に記録層に到達する熱量を増加させ、記録層物質の消去温度を越える様にする。

(9) マスク層の最大吸収波長を、使用するレーザー波長に限りなく近づけることで、レーザー光の吸収効率を大きくし、再生時に必要なレーザーパワーを高める。これにより、再生時に記録層に到達する光量を増加させ、記録層の温度上昇を助ける。マスク層の消色温度以下で、充分、記録層の消去温度を得ることが出来る。

【0018】(10) 顕色剤物質と色素物質で構成されたサーモクロミック材料の融点を高温側に設定することにより、所謂、マスク層の消色温度そのものを高温側にすることで、再生に必要なレーザーパワーを増大させ、これにより、再生時に記録層に到達する光量を増加させ、記録層の温度上昇を助ける。マスク層の消色温度以下で、充分、前記記録層の消去温度を得ることが出来る。

【0019】さて、本発明の光情報記録媒体の第1実施例であるROM型光ディスク1は、図1に示すように、光透過性樹脂基板2上に、マスク層3、反射層4、保護層5を順次積層して成る。再生用レーザー光は樹脂基板2側から照射される。

【0020】光ディスク1において、マスク層3側の表面にピットや凹凸を持つ光透過性の樹脂基板2は、ポリ

10

20

30

40

50

カーボネート樹脂、ポリメタクリル酸エステル樹脂、エポキシ樹脂など、通常、光ディスク基板として用いられるものが使用可能である。ピットやグルーブの形成方法には特に制限はなく通常の射出成形やフォトリソ形成法等で形成される。マスク層 3 はサーモクロミック物質として種々のものを使用することが出来るが、例えば、電子供与呈色化合物と電子受容性顔色剤の混合物などが適する。電子供与呈色化合物としては、フルオラン系化合物、スピロピラン系化合物、フタリド系化合物、ラクタム系化合物などがあげられる。電子受容性顔色剤としては、フェノール系化合物、ビスフェノール系化合物などがあげられる。

【0021】反射層 4 は一般に光ディスクに使用されている反射膜材料と同様であり、金、銀、アルミニウムなどの金属や微量の金属や半金属を添加した合金の薄膜で構成される。反射層 4 の上には、媒体保護の目的で必要に応じて保護層 5 を設ける。この保護層 5 は、紫外線硬化樹脂をスピンコート法によって、形成することが出来る。

【0022】本発明の光情報記録媒体の第 2 実施例である ROM 型光ディスク II は、図 2 に示すように、樹脂基板 2 上に、誘電体層 8、マスク層 3、誘電体層 7、反射層 4、保護層 5 を順次積層して成る。再生用レーザー光は樹脂基板 2 側から照射される。

【0023】光ディスク II は、図 2 に示すように、光透過性基板 2 とマスク層 3 間、マスク層 3 と反射層 4 間に透明無機物からなる誘電体層 7、8 をそれぞれ設けている。誘電体層 7、8 は放熱の必要性、光干渉性等の必要性に応じて使用され、主に、金属酸化物、非金属酸化物、金属ハロゲン化物、金属硫化物、金属窒化物等やこれらの混合物が使用される。例えば、二酸化珪素、フッ化マグネシウム、硫化亜鉛、窒化ケイ素などがあげられる。

【0024】本発明の光情報記録媒体の第 3 実施例である記録再生型光ディスク III は、図 3 に示すように、樹脂基板 2 上に、マスク層 3、記録層 9、反射層 4、保護層 5 を順次積層して成る。記録又は再生用レーザー光は樹脂基板 2 側から照射される。

【0025】光ディスク III において、マスク層 3 側の表面にグルーブ溝を持つ光透過性の樹脂基板 2 は、ポリカーボネート樹脂、ポリメタクリル酸エステル樹脂、エポキシ樹脂など、通常、光ディスク基板として用いられるものが使用可能である。グルーブの形成方法には特に制限はなく射出成形法や 2P 法等の通常の方法で形成される。マスク層 3 はサーモクロミック物質として種々のものを使用することが出来るが、例えば、電子供与呈色化合物と電子受容性顔色剤の混合物などが適する。電子供与呈色化合物としては、フルオラン系化合物、スピロピラン系化合物、フタリド系化合物、ラクタム系化合物などがあげられる。電子受容性顔色剤としては、フェ

ノール系化合物、ビスフェノール系化合物などがあげられる。

【0026】記録層 9 は相変化物質、光磁気物質、有機系ライトワンス物質等を使用出来るが、相変化物質としては、GeSbTe 系合金、AgInSbTe 系合金などがあげられる。光磁気物質としては、TbFeCo 系物質などがあげられる。有機系ライトワンス物質としては、アゾ金属錯体系色素、シアニン系色素、フタロシアニン系色素などがあげられる。反射層 4 は一般に光ディスクに使用されている反射膜材料と同様であり、金、銀、アルミニウムなどの金属や微量の金属や半金属を添加した合金の薄膜で構成される。反射層 4 の上には、媒体保護の目的で必要に応じて保護層 5 を設ける。この保護層 5 は、紫外線硬化樹脂をスピンコート法によって、形成することが出来る。

【0027】本発明の光情報記録媒体の第 4 実施例である記録再生型光ディスク IV は、図 4 に示すように、樹脂基板 2 上に、マスク層 3、誘電体層 8、記録層 9、誘電体層 7、反射層 4、保護層 5 を順次積層して成る。記録又は再生用レーザー光は樹脂基板 2 側から照射される。

【0028】光ディスク IV は、図 4 に示すように、マスク層 3 と記録層 9 間、記録層 9 と反射層 4 間に透明無機物からなる誘電体層 7、8 をそれぞれ設けている。誘電体層 7、8 は放熱の必要性、光干渉性等の必要性に応じて使用され、主に、金属酸化物、非金属酸化物、金属ハロゲン化物、金属硫化物、金属窒化物等やこれらの混合物が使用される。例えば、二酸化珪素、フッ化マグネシウム、硫化亜鉛、窒化ケイ素などがあげられる。

【0029】つぎに、本発明の光情報記録媒体の＜具体例 1＞～＜具体例 3＞について説明する。

【0030】＜具体例 1＞8/16 変調信号が微小なピット（3T マーク長 0.26 μm ）として設けられたポリカーボネート樹脂基板を、金属スタンプにより射出成形し、このピット形成面上に、電子供与呈色化合物として、GN-2（山本化成製）を、電子受容性顔色剤として、ビスフェノール A を、真空蒸着法により、共蒸着成膜し、膜厚モニター上で GN-2 とビスフェノール A の比率を約 1:2 に設定し、膜厚 350 nm のマスク層を形成した。

【0031】次に、マスク層上に、反射層として、アルミニウムを真空スパッタリング法にて、70 nm の厚さに形成した。更に、保護膜として、紫外線硬化樹脂 XR11（住友化学製）をスピナー法にて、約 7 μm の厚さに形成し、ROM 型光ディスクを作製した。

【0032】上記光ディスクを開口数 NA0.6 の対物レンズと、波長 635 nm の半導体レーザーを搭載したプレーヤで再生した。再生の線速度は 3.5 m/s、再生パワーは、4.0 mW に設定した。4.0 mW 以下の再生パワーでは、マスク層の透過率が增大しないため信号を読み出すことができなかった。

【0033】最短マークである3Tの信号振幅 I_{3T} と最長マークである14Tの信号振幅 I_{14T} を測定し、 I_{3T}/I_{14T} を求めた。1回目の再生では $I_{3T}/I_{14T}=0.60$ であったが、10回目の再生では $I_{3T}/I_{14T}=0.20$ と低下し、信号品質が劣化しジッタが15%以上とって再生不可能となった。

【0034】＜具体例2＞案内溝としてトラックピッチ0.74 μ mのグループが設けられたポリカーボネート樹脂基板を、金属スタンプにより、射出成形し、このグループ形成面上に、電子供与呈色化合物として、GN-2（山本化成製）を、電子受容性顔色剤として、ビスフェノールAを、真空蒸着法により、共蒸着成膜し、モニター上でGN-2とビスフェノールAの比率を約1:2に設定し、膜厚370nmのマスク層を形成した。

【0035】次に、マスク層上に、誘電体層として、ZnS-SiO₂を真空スパッタ法により、75nmの厚さに形成した。その上に記録層として、Ag₅In₅Sb₆₀Te₃₀を、真空スパッタ法により、20nm形成した。誘電体層として、ZnS-SiO₂を真空スパッタ法により、17nmの厚さに形成した。更に、反射層として、アルミニウムチタン合金（Al_{97.5}Ti_{2.5}wt%）を真空スパッタリング法にて、150nmの厚さに形成した。更に、保護膜として、紫外線硬化樹脂XR11（住友化学製）をスピナー法にて、約6 μ mの厚さで形成し、書き換え型光ディスク（相変化型光ディスク）を作製した。

【0036】上記光ディスクを開口数NA0.6の対物*

表1

マスク層膜厚 (nm)	再生パワー (mW)	再生可能回数
200	1.5	5000
250	2.2	50
330	3.5	2
400	4.0	1

【0040】表1に示すように、マスク層の膜厚が厚くなるにつれて、マスク層の透過率が増大し超解像効果が出現する再生パワーも増大する。これに伴い相変化記録マークが消去され易くなり再生可能回数は減少する。マスク層の膜厚と再生パワーを調整することにより再生可能回数を任意に設定することが可能であった。

【0041】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、再生回数に制限を設けた光情報記録媒体を提供することができる。これによって、情報の発信側と受信側の当事者だけに限定した情報交換が出来る。光情報記録媒体の再生の可否を判別するだけで、再生の前か後か判別できる。記録を後に残したくない用途が広がる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の光情報記録媒体の第1実施例の積層状

* レンズと、波長635nmの半導体レーザを搭載したプレーヤで記録再生した。はじめに、線速度3.5m/sでレーザ光を分割パルスパターンに変調して記録を行った。ピークパワー14mW、消去パワー7.0mW、ボトムパワー0.5mWに設定した。記録信号は8/16変調で、クロック周波数は38.6MHzであった。ついで、線速度3.5m/sで、再生パワー3.5mWで再生を行った。3.5mW以下の再生パワーでは、マスク層の透過率が増大しないため信号を読み出すことができない。

【0037】最短マークである3Tの信号振幅 I_{3T} と最長マークである14Tの信号振幅 I_{14T} を測定し、 I_{3T}/I_{14T} を求めた。1回目の再生では $I_{3T}/I_{14T}=0.50$ であったが、2回目の再生では $I_{3T}/I_{14T}=0.10$ と低下し、信号品質が著しく劣化した。1回目の再生時に記録層に形成されたアモルファス状態の記録マークが、再生光を吸収して昇温し結晶化したため記録マークが消去され、信号が再生できなくなった。

【0038】＜具体例3＞マスク層の膜厚を200nmから400nmまで変えた他は実施例2と同様にして相変化型光ディスクを作製し、記録を行った。ついで、線速度3.5m/sで、再生パワーを1.5から4.0mWに設定して再生を行った。マスク層の膜厚と再生可能回数($I_{3T}/I_{14T}>0.20$)を表1に示す。

【0039】

【表1】

態を説明するための図である。

【図2】本発明の光情報記録媒体の第2実施例の積層状態を説明するための図である。

【図3】本発明の光情報記録媒体の第3実施例の積層状態を説明するための図である。

【図4】本発明の光情報記録媒体の第4実施例の積層状態を説明するための図である。

【符号の説明】

2 樹脂基板（光透過性基板）

3 サーモクロミック層（マスク層）

4 反射層

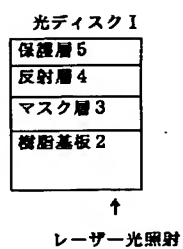
5 保護層

7, 8 誘電体層

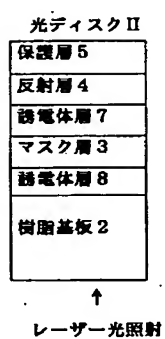
9 記録層

I~IV 光ディスク（光情報記録媒体）

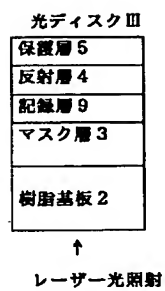
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

